



ポートランド日本人学校だより

2017. 1. 28

第16-34号

わかば

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

入園・入学希望者説明会開催！

先週の土曜日（1月21日）2017年度に向けて、幼稚部入園・小学部1年入学希望者説明会を一週間遅れで開催致しました。

説明会では、教育副委員長の 村木 祐介 様より、本校の運営方針や目的について説明していただくとともに、学校や面接に関わっての説明をさせて頂きました。

本校の目的は、「帰国後日本の教育に円滑に適応することが出来るような学力をつける」ことにありますので、「日本語の語学学校」ではありません。日本語を学ぶというより、日本語で学ぶ学校です。授業に必要な日本語力はご家庭で習得して頂かなくてはなりません。また、小学部では週1回の授業を補うため、宿題（プリント、学習帳、音読、日記、等）が出されますが、これもご家庭で指導して頂くことになります。

日本人学校は、商工会に設置された教育委員会により運営されておりますが、教育委員の皆様には、全員がボランティアとして、年間を通して本校に貢献していただいております。同様に、保護者の皆様全員にも学校行事などの企画、運営を担当して頂いております。本校の運営には、保護者の皆様のご支援とご協力が欠かせません。

小学部入学テストは2月1日（水）に、幼稚部入園面接は2月10日（金）に、どちらも商工会事務所で行われます。



高等部進学審査について



本校の中学部を卒業し、高等部への進学を希望する生徒を対象に、高等部進学審査（小論文・面接）を下記の通り実施致します。日本ではこの時期中学3年生は高校入試の真っ最中ですので、本校でも高等部への進学を希望している生徒を対象に進学審査を実施しています。高等部への進学を希望している生徒の皆さんは、時間厳守で集合するようお願いします。なお、高等部への進学が認められた生徒には、後日高等部進学許可通知書が郵送されます。

- | | | |
|--------------|----|---------------------------|
| 【小論文】 | 日時 | : 2月4日（土）、15:20より |
| | 場所 | : E-8教室 |
| 【面接】 | 日時 | : 2月11日または18日（土）、15:15より |
| | 場所 | : 小会議室 |
| | 注意 | : 面接の期日、順番については、学級担任より連絡。 |

児童生徒作品より

2年3組 榎 美海 2年1組 嶺山 桃 2年1組 大石 夕貴

	秋が いっばい		秋が いっばい		秋が いっばい
カムチナル 又でときごき見り鳥 ぐす。色は赤黒と黄、色で す。もしカムチナルを見たら ろう。冬だたよかえじまよ。	榎 美海	名前 嶺山 桃 秋のもみじ 秋のもみじは、きれいだ ね。いろいろな色の もみじ。秋にはもみじの は、ばがおちてくる。 赤、黄、色、オレンジ のは、ば、いっばいあつめて 火のもみじのは、ばの 山を作る。	名前 大石 夕貴 ごんぐり 学校の帰り道にごん ぐりをたくさん見つけ ました。ぼうしがないの もあり、小さいのもあ りました。ポケットを いっばいにしてかえり ました。ガエ、たうごんぐ りを外にまきました。 わたしがいいました。 りすが食べにくるかたよ。		

「マザー・テレサ」を読んで 小学部 6年1組 オドーティ りあむ

ぼくが、この「マザー・テレサ」を読んだきっかけは、マザー・テレサのことを、あまり知っていなかったからです。しかし、この本を読んで、マザー・テレサは、貧しい人の中でも最も貧しい人々のために一生を捧げた神様のような人なんだな、と感じました。もらったすべてのお金を、貧しい人の中でも最も貧しい人たちのために費やすこと、そして、修道女になってからは、家族と共に時間を過ごすこともなく、世界中の人々を笑顔にするために一生を捧げたのです。こんなこと、ぼくには出来ません。とても難しいことだと思います。しかし、マザーには、貧しい人々を家族のような存在にし、貧しくて希望を失った人々が希望を取り戻す姿に元気をもらう能力があったのでしょう。マザー・テレサは人類の歴史の中で最も平和を求めていた人なんだろうな、と思いました。

蓬萊の玉の枝—「竹取物語」から 中学部 1年2組 久保 日茉莉

私の知っていた「かぐや姫」の話は、かぐや姫が竹から生まれ、大きくなり月に帰って行くという簡単なものだった。日本で上映されていた「かぐや姫の物語」も見たことがなかったため、蓬萊の玉の枝の内容を知ったのは国語の授業がきっかけだ。

この話は、くらもちの皇子がずるをしてまでかぐや姫と結婚しようとするが、失敗に終わるといふものだった。くらもちの皇子はなぜそこまでかぐや姫にこだわるのか疑問に思ったが、かぐや姫はそれほど魅力的だったのだろう。私も一度お目にかかりたいものだ。そして、なぜくらもちの皇子がうそをついたのか、授業を受けるにつれて理解することができた。

平安時代では、他の国に行くというのはとても危険だ。蓬萊の玉の枝という、有るかどうかも分からない物のために危険を冒すなんて、誰もしたくないはずだ。もし私がそんな状況に置かれたとしても、くらもちの皇子と同じようにするだろう。しかし、くらもちの皇子のずるはばれてしまう。この場面を読んで、やはりずるは良くないと思ったため、私の中に矛盾した感情が生まれた。

そして、月に帰る時にかぐや姫は帝に天人の持参した不死の薬をわたす。けれども、帝はその薬を捨ててしまう。私も家族や友達、大切な人がいない世界では生きたくない。この部分はとても共感することができた。

蓬萊の玉の枝は、風刺の目で描かれており、お話がすんわり自分の中に入ってきた。千年以上前に書かれた物でも、同じ気持ちを感じるができるなんて驚きだ。また、古典ともふれあうことができ良かったと思う。もっと古典と親しむために、残りの四人の失敗談を読むことから始めたい。



来週の「わかば」はお休みです